

第 35 回 豊済会 職員研修会

2026 年 9 月 27 日(日) 池袋ホテルメトロポリタンにて豊済会全職員が参加する職員研修会が開催されました。今回のテーマは「これからの CKD・透析医療を考える～患者中心の治療選択と意思決定支援～」です。

1. 開会挨拶 豊済会 菊地理事長

今回も外部より専門講師を招聘して特別講演が実施され、職員の資質向上に向けた研修機会を継続的に設けていく方針が示されました。

あわせて 11 月 1 日に開催を控える「第 6 回 日本腎・血液浄化 AI 学会 学術集会・総会」の準備進捗状況が報告されました。開催まで残り 1 ヶ月となる中、準備作業は順調に推移しており、本番の成功に向けて引き続き組織全体での協力が呼びかけられました。

なお、本大会では AI 関連のテーマが主軸となり、Google 関係者の登壇をはじめとする先進的な知見を習得する貴重な機会となる予定です。



2. 教育講演

日本赤十字社 武蔵野赤十字病院 高橋大栄先生

「当院が目指す CKD・透析診療」

腎臓病は自覚症状が乏しく、発見から 1 年未満で透析に至る例が 2 割以上に上ります。新規透析導入患者の平均年齢も約 72 歳と高齢化が進む中、早期に発見できれば新薬等の活用で悪化のスピードを大幅に抑えることが可能です。武蔵野日赤では地域のかかりつけ医と連携し、精密検査や治療計画の策定を二人三脚で支える体制を整えています。さらに新指標の開発により、確定診断に欠かせない腎生検も 1～2 泊の短期入院で安全に受けられるようになりました。検診で尿蛋白等の異常が指摘された際は、「放置せずかかりつけ医に相談してほしい」とお話がありました。



3. 村上統括技士長

透析患者さんの命綱である「シャント」のトラブルを防ぐため、音の指標を応用した

「HISV モニタ」を導入しました。スタッフの経験値による気づきのバラつきを補い、患者さん固有の変化傾向から早期のカテーテル治療につなげて完全閉塞を防ぐ画期的な仕組みです。大学病院で培った長年の臨床経験と最新技術を結びつけ、アレルギーの原因の解明や現場の業務改善にも尽力。患者さんが日々安心して治療を受けられる医療環境づくりと安全性の向上に情熱を注いでいます。



4. 教育講演

東邦大学医学部 腎臓学講座 酒井謙先生

「腎不全患者の意思決定支援と保存的腎臓療法（CKM）の立ち位置～腎不全患者の緩和ケアガイダンスをふまえて～」

腎不全の治療は「無理に透析を続けるか諦めるか」の二者択一ではありません。腎不全の緩和ケアは看取りだけを目的とせず、だるさやかゆみなどの苦痛を和らげ、生活の質を保つための前向きな医療です。透析を行わない「保存的腎臓療法」を選んだ場合でも、状態や気持ちの変化に応じて再び透析を検討できます。また、訪問診療や訪問看護による在宅療養の支援や、負担を減らした「緩和透析」など多様な選択肢があります。患者さんとご家族が医療チームと対話を重ね、納得のいく生き方を一緒に選んでいくことが大切です。



5. 学会報告

2026年6月19日（金）～21日（日）に神戸ポートピアホテル、神戸国際会議場で第71回日本透析医学会学術集会・総会が開催されました。

① 下落合クリニック 横井技士

「当施設における高齢透析患者の透析条件設定」

② 下落合クリニック 屋根田技士

「災害時に備えた民間業者との連携による水供給体制の構築と訓練」

③ 下落合クリニック 長崎技士

「ニプロ社製 MFX-UW の希釈法の違いによる溶質除去能の検討」

④ ときわクリニック 寺田看護師

「透析患者の災害対策の取り組み～パンフレットを用いての患者勉強会～」

⑤ ときわクリニック 岡田技士

「透析用洗浄剤の誤混入防止対策の取り組み」

⑥ 境南クリニック 涌井看護師

「バスキュラーアクセス管理と医療連携について～バスキュラーアクセス専門病院へ紹介する看護師の立場から～」



下落合クリニック
横井技士



下落合クリニック
屋根田技士



下落合クリニック
長崎技士



ときわクリニック
寺田看護師



ときわクリニック
岡田技士



境南クリニック
涌井看護師

6. 閉会挨拶 豊済会 井上会長

最後に井上会長からの総括・閉会挨拶が行われ、参加したスタッフへの労いが述べられました。続いて11月のAI学会の成功に向けた意気込みが示され、温かい雰囲気でも終了しました。



7. 最後に

今年は2名の先生を講師にお迎えしてご講演いただき、大変有意義な研修となりました。今後とも患者さんに質の高い医療を提供できるよう、新しい知見を積極的に取り入れ、豊済会職員一同精進してまいります。